

ひだまり

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 後援会情報誌

平成25年3月1日 第4号

愛称「ひだまり」は、教育文化学部が「秋田の文化の温かさ」の集まる日溜まりのような場所となり、皆様にその暖かさが届きますようにという願いを込めて名付けられました。

2013Vol. 4

もくじ

教育文化学部国際交流等学術研究交流基金事業報告「ロシア研修旅行に参加しました」	1
後援会活動報告(後援会長),就職・進学が決まった学生からメッセージ	2・3
教育文化学部就職活動支援(就職委員長)、就職内定状況	4
就職情報室利用学生インタビュー／旭水会のご案内	5
「卒業論文及び修士論文テーマの公募成果報告会」を開催／学部長あいさつ／大学・学部関係行事予定	6

教育文化学部国際交流等学術研究交流基金事業報告 「ロシア研修旅行に参加しました」

国際言語文化課程で開催された今回の研修旅行(2012年9月20日～27日)では、ペテルブルクとモスクワの2都市を訪れました。旅行に行くにあたり、私たちはそれぞれテーマを決めて事前の研修会で発表を行っていました。

ペテルブルクでは、世界三大美術館の1つに数えられるエルミタージュ美術館を見学しました。研修会で紹介した、レオナルドやレンブラント、ラファエロといった巨匠たちの絵画を実際にこの目で見るのができたというのはとても貴重な体験だったと思います。どの絵も近距離から鑑賞することができ、細かい筆づかいや色づかいまではっきりとわかりました。ペテルゴーフというピョートル大帝の夏の宮殿は、写真で見ると外観・内装共に非常に豪華絢爛で、やはり本物の輝きは実際に見てみないとわからないと思いました。タイミングが合わず、有名な水の噴水をあまり見ることができなかったのが心残りです。

モスクワでは、まず赤の広場や武器庫があるクレムリンに行きました。その他にもベルニサージュというお土産市場でロシアの民芸品を買ったり、トレチャコフ美術館でロシア人画家の絵画やイコンなどを鑑賞したりして、モスクワの街を堪能しました。夜はスーパーでロシアの酒や菓子、惣菜などを買い、先生の部屋に集まって皆でプチ宴会を開いたのもいい思い出です。

ロシアに到着して、はじめはなかなかロシア語を話すことができませんでしたが、2日目以降は少しずつ話せるようになりました。ロシアへはかねてから行きたいという思いはあったのですが、1人で行くには不安が大きかったので、このような形でその思いが実現したのはとても嬉しかったです。また、国際交流等学術研究交流基金の支援にはとても感謝し

ています。ロシアへの個人旅行はまだいろいろと制限があり、1人で計画して行くのはまだ難しい状況です。そのため、ロシア語を学習している皆さんは、是非ともこの機会を逃さず、ロシアの文化や生活を実際に肌で感じてほしいと思います。

国際言語文化課程 欧米文化選修3年 小林まい花
欧米文化選修3年 松家 千夏



平成24年度の 後援会の活動について

教育文化学部後援会 会長 木村 光彦

秋田大学教育文化学部後援会会員の皆様、並びに秋田大学の教職員の皆様におかれましては、日ごろから後援会へのご理解・ご支援をいただきまして誠にありがとうございます。

さて、平成24年度の後援会活動について紹介させていただきます。今年度は、7月に理事会、総代会を開催し、それを受けて、10月、11月に各地区会を開催しました。その際には、大学の先生がご出席くださり、就職状況をはじめとし様々な情報を提供してくださいました。そこで、震災後の極めて困難な就職状況にあって秋田大学の学生の就職率が震災前とほぼ同様のレベルを維持していることを伺い、学生たちのがんばりに感心すると共に、秋田大学教職員の皆様のご尽力に大変感謝しております。

後援会の事業は、卒業生の完全就職の実現に向けた支



平成24年度の理事会・総代会の様子

援が第一です。このために、学生たちの就職活動のための施設や事業の充実を図るように、皆様の会費を活用して就職情報室の設置、就職に関係したセミナーや講座の開催、企業説明会等を大学と連携を取りながら財政面での応援をしております。今後もよりいっそう充実した支援を実施していくためにも、会員の方々には会費納入については是非ご協力いただきたいと思います。

ひとりでも多くの学生が自分の希望する進路にすすめるよう健闘を期待して、後援会の活動報告とさせていただきます。

就職・進学が決まった学生からメッセージ

平成24年11月3日(土)に開催した中央地区会にて、4年生就職活動・大学院合格体験発表を行いました。参加された方からの反響も良く、今回改めて本誌に掲載します。保護者の方のみならず、学生にとっても参考になる内容です。

就職活動を通して学んだこと

教育文化学部 国際言語文化課程
国際コミュニケーション選修 岡田 麻美



就職活動の経験は私にとって自分を見つめなおすとても貴重な時間となりました。

選考などで最も多いのが「あなたが大学生活で最も力を入れたことは何ですか?」という質問です。就職活動をした人で、この質問に答えたことがない人はほとんどいないと思います。質問に対する自身の答えを一生懸命考えることももちろん大切ですが、私はなぜこのような質問をするのかを考えることも重要なことだと思っています。そうすると、なぜそのことに最も力を入れたのか、困難だったことやそれをどのようにして乗り越えたのか、またそこから何を学んだのかなど伝えたいことが次々と出てきて、自分はこの人間であるということをもっと具体的に表現した返答にすることができるからです。しかしこのように質問を1度自分の中で噛み砕く作業を企業の選考の場ですぐにできる人はなかなかいないと思います。満足のいく返答をするためには前持って準備をしておくことがとても有効です。

私の場合、中学校では吹奏楽、高校では合唱の部活動を行い、大学では秋田大学生協の学生委員会に所属し、秋田大学生や新入生のために様々なイベントを企画する活動を行ったり、飲食店でのアルバイトや合唱団の活動を行ったりしていました。これらの中で自分が特に印象に残っている出来事や困難を目の前にして努力したことなどを自由にノートに書いて頭の中を1度整理してみると、その後のエントリーシートや面接での質問にも上手に答えられるようになりました。今までの自分を振り返って見つめ直し、これまでの約20年の人生で何をして何を学び、どのような価値観を持つようになったのかを認識し、それを踏まえて自分はどんな働き方をしていきたいのかをしっかりと考えることが大切だと感じました。

何が起こるか分からない大学生活

教育文化学部 人間環境課程
環境応用選修 宇佐美隆章



入学当初から、将来は教師になりたいという思いを強く持っていました。しかし、2年生の時に行った教育実習で自分には教師として足りない力が多いこと

を痛感させられ、「自分は教師になれるのだろうか?」と悩むようになっていました。でもどうしたらいいのかわからない、そんな状態で大学生活の折り返しを迎えました。

そんな時、自分にとって転機となる出会いがありました。それは宮城県に被災地支援のボランティアへ行った時のことです。移動のバスの中で偶然隣に座っていた人が、ある教育系大学院の2年生で、その方が通っていた大学院について教えてもらう事ができました。話しているうちに、大学院で学べる内容が魅力的だったことはもちろんですが、その方のしっかりとした受け答えや一本筋の通った教育観、大学院に進学した理由が私と同じような悩みを抱えていたからという事もあり、「自分も大学院へ進学したらこの人のようにになれるのではないか」と思うようになり、その頃から進路を大学院進学にしました。そこから始まった試験勉強の日々は長くつらいものでしたが、自分にとって目標となる人がいたからこそやりきることができたのだと思っています。

私が後輩のみなさんに伝えたいのは、「いろんな所へ行行って、いろんな事をしてほしい」ということです。大学生活というのは良い意味で何が起るのかわかりません。私が偶然行ったボランティアの偶然隣に座った人が進むべき道を示してくれたように、いつどこでどんな出会いや出来事があるかわかりません。よく言われることですが、大学生の間にしかできないことはたくさんあります。いろんな事に挑戦していい経験をたくさん積んでください!!

公務員試験を通じて

教育文化学部 地域科学課程

生活者科学選修 伊藤紗耶花



私が公務員を意識し始めたのには親の影響が強くあると思っています。私は幼いころから、母にあなは正義感が強く几帳面だから公務員に向いている、とよく言われていました。そう言う私の両親は公務員ではなく、親族にも公務員の人はいませんでした。きっと両親は、娘に安定した職についてほしいという思いから公務員を意識していたのだと思います。

大学3年になると私は生協の公務員講座を受講し、公務員試験に向けて勉強に励みました。まず一次試験を通過しなければ面接にもたどり着けないため、毎日朝から晩まで図書館に籠り、厚い問題集を何周も解いて試験勉強をしていました。結果、内定先を含めいくつかの一次試験に合格しました。そこからの二次試験対策は私にとって本当に辛い日々でした。自分の言いたいことを上手く言葉にして相手に伝えるということが苦手な私は、何度も面接練習をすることで面接に慣れるという方法をとりました。そのために、生協の職員の方に面接を見ていただいたり、就職推進

課の方々に面接練習をお願いして、なるべく多くの方からアドバイスをもらうように工夫していました。

公務員試験を終えて感じたのは、一次試験と二次試験への対策は全く違うということです。一次試験対策はとにかく机に向かって一人でもできますが、二次試験対策は一人では絶対に乗り越えられません。面接対策をして自分で良いと思っても、他人から客観的に見てもらうことで別の捉え方がされたり問題点を指摘してもらったりと気づくことがたくさんあります。大学には、二次試験対策に協力してくれる人や場所がたくさんあります。これから試験に取り組む皆さんには、一人で苦勞を抱え込まず、存分に頼り、将来のために努力してほしいと思います。

私の夢物語

教育文化学部 学校教育課程

教科教育実践選修 武田隼人



私は中学2年時の社会の先生との出会いをきっかけに「教師になりたい」という夢を抱き、秋田県の教師になるために秋田大学へ入学をしました。大学入学後、母校の高校でラグビーの指導や教育実習を経験することで、「教師になりたい」という想いがより一層強くなりました。

教員採用試験に向けて本格的に勉強を始めたのは、大学3年の11月頃からです。それまで、バイトや遊びなど楽しく時間を過ごしていた私にとって、勉強一色になることが始めは苦痛の日々でした。ただ、そんな中でも勉強を続けることができたのは多くの人たちの支えのおかげです。「スタージュ」に参加し、教師になるという同じ志をもった仲間と共に色々な教育テーマについて討論したり、集団面接や模擬授業の練習を繰り返したりしました。また大学の教授にお願いして、志願書や小論文の添削、模擬授業の指導案の添削を何度もしました。就職情報室のお二人は、私が不安や悩みを抱えている時にたくさん話を聞いてもらいました。5月には直前対策講座に参加し、追い込みをかけました。両親はどんな時でも私を精一杯応援、叱咤激励してくれました。たくさんの方がサポートをしてくれたおかげで、教員採用試験本番では自信をもって臨むことができました。そして、秋田県の教員採用試験に合格することができました。

この就職活動期間中、私は「仲間の大切さ」を一番感じました。模試の点数を競い合ったり、お互いの不安や悩みについて話したり、馬鹿話をして笑いあったりなど、たくさん時間を仲間と過ごすことで、不安で辛い時期を乗り越えることができました。

来年度から、教壇に立てることがとても嬉しいです。長年の夢を1つ叶えましたが、次なる目標や夢をたて、それに向かって精一杯努力していきたいです。

教育文化学部の就職支援活動について

就職委員長 林 信太郎

ここ数年間、厳しい就職状況が続いています。また、本学部の学生は地元志向が強く、難関である公務員志望者が多いという特徴があります。それにも関わらず、東北地方の他県の教育系学部に負けない就職率を達成しています。まだまだ満足できる数字ではないとはいえ、これはかなりの健闘だと思います。これも学生の皆さんのがんばりによるとともに、保護者の皆様のご支援・ご協力にもよるものです。心から感謝いたします。

さて、教育文化学部の就職支援活動の中心は、後援会費で運営されている就職情報室です。ここには2名のスタッフがいますが、就職相談、各種イベントの開催、個人指導のアレンジなどで御活躍いただいています。学生一人一人の個性を知っていますので、きめ細やかな対応(就職支援ではこれが大事です)を行っています。ぜひ、お子さんにも就職情報室に行くようお勧めください。それだけでも、就職活動に成功する可能性は確実に高まります。

教職については、スタージュという講座を開催しています。学部の教員や特任教員(教育委員会や学校で実務を担当されてきた方)による、模擬授業や場面指導など2次試験対策を中心にした講座が定期的で開催されています。

公務員については、個人指導、それも二次試験対策が中心になっています。就職情報室でアレンジしてもらった教員と、およそ1時間にわたり面接指導や

小論文対策を行いますので、二次試験の地力が深く身に付きます。

民間企業についても個人指導が中心になります。エントリーシートの書き方、その前提になる学生時代の行動の振り返りなどについての支援を教員が直接行います。このアレンジも就職情報室で行っています。

最後に一つお願いがあります。3年次の後半から始まる就職活動には、かなりのお金がかかります。教職、公務員、民間企業を問わず準備が必要です。大学の学費を払うだけでも大変なところに、たいへん恐縮なお願いですが、こつこつ貯金するなどしてお子さんの就職活動にお備えいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



(2月末現在)

就職内定状況

学部・課程等名	卒業 予定者数	進学 予定者数	求職者数			就職内定者数			就職内定率			その他	
			合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女		
教育文化学部	学校教育課程	98	12	81	34	47	41	20	21	50.6	58.8	44.7	5
	地域科学課程	62	1	61	30	31	51	25	26	83.6	83.3	83.9	0
	国際言語文化課程	65	2	58	13	45	45	9	36	77.6	69.2	80.0	5
	人間環境課程	60	3	54	32	22	36	20	16	66.7	62.5	72.7	3
	小計	285	18	254	109	145	173	74	99	68.1	67.9	68.3	13
教育学研究科	29	1	28	13	15	18	8	10	64.3	61.5	66.7	0	
合計	314	19	282	122	160	191	82	109	67.7	67.2	68.1	13	

就職情報室 利用学生インタビュー

後援会の会費で運営されている就職情報室。普段、学生はどのように利用しているのかインタビューしました。



答えてくれた学生(前列左から)

学校教育専攻学校教育専修1年次 戸田緑さん
 学校教育課程教科教育実践選修3年次 亀井貴子さん
 学校教育課程教科教育実践選修3年次 中川和輝さん
 学校教育課程教科教育実践選修3年次 有明奨太さん
 後列は就職情報室の信太さん、村上さん

Q:就職情報室をどのように利用していますか？

戸田: 修士1年生になって、スタージュが始まってから本格的に利用しています。主に教員採用試験の資料や情報収集のためですが、なかでも日本教育新聞は就職情報室で見られないので、チェックするようにしています。

中川: 週に5回、ほぼ毎日来ています。資料収集をしたり、先輩の話を聞いたり。就職情報室に来ることによって教員への就職への意識を途切れずに持つことができますし、気分転換にもなります。

Q:利用してみて良かったことは？

亀井: 就職に関する情報がたくさんあるので、来る度にモチベーションがあがります。進路や試験勉強で悩んだ時も歴代の先輩が残っていた資料を見たり、就職情報室の方に相談したり。いつも帰る時は「勉強頑張ろう」という気持ちになります。

有明: 就職情報室を利用するのは、就職を意識してからという人が多いと思います。でも、1,2年生から積極的に利用することで、進路への意識も高まるし、就職活動を始めるときもスムーズに取り組むことができると思います。

戸田: 教員採用試験対策はもちろん、「教師になること」について、自分なりに考える機会をたくさんいただき、とても充実した時期を過ごせています。

Q:最後に、ご両親へのメッセージをお願いします。

亀井: おかげさまで充実した大学生活を送りながら、受験勉強に励めています。現役合格できるように頑張ります。いつもありがとう。

戸田: いつもありがとう。就職活動をしていくなかで、心が折れそうになることもあるけれど、たくさんの方々を支えていただいて、元気に就職活動を続けているので、安心してください。

中川: いつもありがとうございます。おかげさまで充実した大学生活を送っています。一人前の社会人になれるようにこれからも頑張っていきます。

有明: 現在、充実した大学生活を送ることができていることに、日々感謝しています。なんとか教員への就職を決めて、早く報告できればと思います。

Q:ありがとうございました。

*スタージュ…教員を目指す学生たちを支援する取り組みです。教育行政での経験や教育現場での指導・実践が豊富な教員による実践講座、教員として働く先輩を招いての「OB・OG教員から学ぼう－教職への動機・道程－」、模擬授業、面接練習、1次試験及び2次試験対策など、週1回のペースで年間を通して行っています。

旭水会のご案内

旭水会会長 大友 康二



同窓会・同期会等の多くは、先輩後輩との親睦・母校への事業協力等が普通である。旭水会もその例に洩れないのだが、もうひとつ異なる観点から、新しい活動を起こしたいという他と異なる面を持つ。

それは総会とか講演会とか従来型のものではなく、ひとつ独自の事業を起こそうではないか、という県民運動としての働きである。

全国各地で車の発展・普及によって、鉄道線路の利用が少なくなり、請け負った第三セクターも赤字を抱えて、その運営・会社維持に努力中である。

秋田県内にも、本荘・矢島を結ぶ鳥海山ろく線や角館・鷹巣間の秋田内陸縦貫鉄道(内陸線)がある。二つとも赤字で、その存続に向けて会社や沿線住民中心に運動中である。

言うなれば、これは利用者・沿線住民の問題だけではなく、秋田県の財産でもある。財産を守るために、県民一同が努力しなければならないのは当然のことだろう。

旭水会では一昨年からの財産を守ろうと、運動を展開し続けている。スローガンは「一人一年一回、内陸線・鳥海線を利用しよう」というものである。限られた会員数のささやかな運動であるが、次第に大きなうねりとなって、鉄道を守る県民運動の意識づけ・乗る・利用する行動となって欲しいと願っている。一滴の雨だれでも一粒の米は洗えるのだ。皆さんの協力が欲しい。

秋田大学教育文化学部 地域連携推進事業 「卒業論文及び修士論文テーマの 公募 成果報告会」を開催しました。

秋田大学教育文化学部では平成24年度秋田大学教育文化学部地域連携推進事業「卒業論文及び修士論文テーマの公募 成果報告会」を開催しました。

本学部では、自治体等との連携・協力による地域教育への貢献および研究成果の地域社会への還元を目指し、卒業論文及び修士論文のテーマを自治体から公募する事業を実施しています。今年度は大仙市より「地域資源を生かした観光振興」について提案があり、6名の学生が卒業研究として取り組みました。先日、その成果となる卒業論文を完成させ、広く自治体関係者及び秋田大学教職員・学生へ発表する機会として、成果報告会を開催しました。

大仙市役所を会場に開催した報告会には大仙市役所関係者や市民の方など約60名が参加。報告会でははじめに秋田大学教育文化学部の四反田素幸学部長が「地域に貢献する人材養成の一端をご覧ください」と挨拶すると、続いて大仙市長 栗林次美氏が「学生の研究成果を通して地域を良くする要素を見つけたい」と挨拶しました。

成果報告では学生達が、大仙市の史跡や民俗芸能、観光資源について卒業論文にまとめた研究成果を発表。学生ならではの視点で大仙市の地域資源や観光振興を提案しました。参加者からは「身近すぎて気づかなかった地域の価値を再発見できた」「高齢化が進むなか、地域の活性化、観光化について考えさせられた」といった感想が寄せられました。

また今年度は自治体と連携して行う研究テーマを学生からも募集し、3名の学生が自治体の協力を得て卒業研究に取り組みました。

秋田大学を会場に開催した報告会には自治体関係者や大学の教職員が参加し、学生が約1年をかけて取り組んだ研究成果の発表に耳を傾けました。



学部長あいさつ

教育文化学部長 四反田 素幸

後援会の皆様には本学部の活動に様々な面でご支援を頂き、厚く御礼申し上げます。特に学生の就職支援活動については多大なるご協力を賜りまして誠に有難うございます。マスコミ等では昨今の厳しい就職状況がしばしば取り上げられておりまして、ご父兄の方々のご心配されていることと存じますが、本学部の学生諸君は前向きに頑張ってくれているように思います。教育活動を充実させることはもちろん大切ですが、学生諸君が将来に向けて希望を持ちながら学生生活を送るという点では、やはり就職支援活動を充実させることも非常に重要でございますので、今後ともどうか宜しくご協力下さいますようお願い申し上げます。

さて秋田大学では平成26年度のスタートを目指し、国際資源学部(仮称)の新設と教育文化学部および工学資源学部の同時改組を計画しております。教育文化学部は現在の学校教育課程を維持しつつも秋田県の重点的な教育施策を教員養成の点から支える5つのコース構成に改めます。また新課程はこれまでの3つの課程を「地域文化課程」(仮称)として一つにまとめ、「地域社会コース」と「人間文化コース」の2コースを設け、新たに副専攻制度を導入して専門性の育成を図る教育課程とします。改組については随時ホームページ等で情報を提供して参ります。

大学・学部関係行事予定(平成25年3月～)

- 3月 22日 秋田大学卒業式
- 4月 1日 前期開始
- 4月 3日 春季休業終了
- 4月 4日 在来生ガイダンス
- 4月 5日 入学式
- 4月 6日 新入生ガイダンス
- 4月 8日 授業開始
- 4月 16日 定期健康診断1年生・新編入生・教育学研究科生
- 5月 14日 定期健康診断2年生
- 6月 1日 創立記念日
- 8月 9日 夏季休業開始(9月29日(日)まで)
- 9月 30日 前期終了
- 9月 30日 後期開始
- 10月 19日 大学祭(20日まで)
- 12月 26日 冬季休業開始
- 1月 8日 冬季休業終了
- 1月 16日 センター試験のため臨時休業(1月19日まで)
- 2月 19日 春季休業開始(4月3日(木)まで)
- 3月 22日 卒業式
- 3月 31日 後期終了

秋田大学教育文化学部・教育学研究科 後援会情報誌

ひだまり
Vol.4

平成25年3月1日発行
秋田大学教育文化学部
広報・地域連携推進委員会
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
平成22年3月1日創刊
<http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman>